

あびの文化

発行人 大洋
美崎 我孫子市
高野山
250-23
04(7182)
0861

第三十八回記念文化講演会

■ 日時 五月十九日(土)

午後2時開演(1時30分開場)

■ 会場 市民プラザホール(シヨッププラザ内)

■ 共催 我孫子市教育委員会

我孫子の文化を守る会

演題 「嘉納治五郎とオリンピックムーブメント

―多様性を重視した国際人―

講師 真田 久氏(筑波大学教授)

講演の概要

「嘉納治五郎は、講道館柔道の創設者で世界に柔道を普及させた人物として有名ですが、柔道以外にも、日本の体育教育や教員養成のシステムを構築するとともに、アジア人初の国際オリンピック委員会(IOC)委員として30年近く活躍しました。IOC委員としてオリンピックムーブメントに貢献した点は、東京での開催を主張し、それを他のIOC委員に認めさせた点です。

欧米の文化であるオリンピックムーブメントに、アジアの要素、それは嘉納治五郎の考えていたスポーツを通して道徳的・品位の向上をはかることであり、「精力善用・自他共栄」の考えを、オリンピックムーブメントに組み入れることでした。そうすることで、オリンピックは欧米のみの文化ではなく、真に世界の文化になるという考えを持っていました。そのため1940年のオリンピックを東京で開催するべきと主張したのでした。この東京大会は日中戦争の激化により、嘉納の死からわずか2ヶ月後に返上してしまっただけですが、オリンピックムーブメントにアジアの要素を入れ、多様なものにしよとした点は、高く評価できます。1964年の東京オリンピック実現も、この時のネットワークが基盤になっているのでした。」

平成三十年度総会

上記講演会終了後、同日(5月19日)午後3時30分から同じ会場で開催する平成三十年度の総会を開催します。今年度の活動を定める重要な場です。多くの会員の方の参加を期待します。

平成三十年度事業計画(案)

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
 - 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
 - 三、総会、文化講演会(五月十九日)
 - 四、史跡文学散歩(六、九、十一、三月予定)
 - 五、放談くらぶ(原則偶数月第1日曜午後2時)
 - 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回、1ヶ月間)
 - 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
 - 八、文化活動関係団体との連携協力
 - 九、プロジェクト活動への全員参加を進める
 - 十、白樺派についての継続的研究・勉強
 - 十一、我孫子市生涯学習出前講座への講師派遣事業計画(案)についての補足説明
 - 十二、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 今年1月7日(日)我孫子北近隣センター(並木)1階多目的ホールにおいて開催された臨時総会で可決承認された掲題について我孫子市民を中心にPRするとともに、会をあげて具体的に寄附金を募る。
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 当会は2年後の2020年に創立四十周年を迎えるが、それを記念して「四十周年記念誌」を発刊すべく具体的な作成作業をスタートさせる。

我孫子市と共同で「嘉納治五郎展」

我孫子の文化都市の礎 嘉納治五郎を知ろう

五月十九日(土)から二十二日(水)まで、市民プラザギャラリーで「我孫子と嘉納治五郎展」を開催します。内容は、教育委員会文化・スポーツ課が嘉納治

五郎の我孫子での活動のパネルや我孫子に現存する治五郎の書(書軸)などを展示し、当会は独自に治五郎と白樺派との関係などについて展示します。当会の展示エリアには募金箱を設置し来場者からの寄付金を募ります。ギャラリーの展示は入場無料。

同展示の初日にあたる五月十九日(土)午後2時からギャラリー隣のホールで講演会(上記)を開催します。

「嘉納治五郎銅像建立基金」の振込用紙の同封について

今回、会報と同時に「嘉納治五郎銅像建立の寄付についての文書」と郵便局の「払込取扱票(振込用紙)を送らせて頂きました。今回の「銅像建立プロジェクト」は「我孫子の文化を守る会」単独で成し遂げられるものではないことから我孫子市内の諸団体にも協力を呼びかけ、既に、「我孫子の景観を育てる会」、「我孫子市史研究センター」、「ACOB A」、「ふれあい塾あびの」、「あびのガイドクラブ」の各団体より協力の同意を頂き、「ちらし」などにも「協力団体」として団体の名称を掲載させて頂いています。

会員の皆様には周辺の一般の我孫子市民の方々到我孫子と嘉納治五郎の関係を理解して貰うようお話し頂きたくお願い申し上げます。既に「ちらし」を読まれた方や新聞記事で募金の話を知った方からの寄付金が数十件振り込まれています。

しかし会員の皆様に寄付を強要したり強制したりするものではありません。会員の皆様や周辺の方々々が本プロジェクトの趣旨を十分に理解し賛同した上で金額的な協力が可能な場合であれば同封の振込用紙などを活用して頂きたくお願いする次第です。

◆振込口座名 「嘉納治五郎銅像建立基金」

○郵便局 口座記号番号 00290-16-139276

○京葉銀行我孫子支店 普通預金 口座番号 3255211

○千葉銀行我孫子支店 普通預金 口座番号 3830922

○千葉興業銀行我孫子支店 普通預金

口座番号 1129816

リレー連載「白樺派と私」
『史跡散歩の記憶から』

古賀 清昭

我孫子は沼沿いのハケの道と崖線上は20mの高低差がある。昔からこの風光明媚で都心からもまずまずの距離の我孫子には別荘・居住地として、財界人・文人が居を構えた。当会のK先生のご案内を頂き、白樺派の文人の住まい跡を坂道散策したことを思い出しつつ、拙い記述をお許し賜りたい。

武者小路実篤邸(大正五年から大正七年の間居住) 下写真 富士見を経て根戸船戸の森坂を抜けると実篤邸跡に出る。現在は住宅が並び情緒がなくなっている。庭の小道を通りハケの道まで下りるとかつては船着場があり、志賀直哉と舟で行き来したとの話を伺った。



柳宗悦・兼子邸跡(大正三年から同十年まで居住) 天神坂を上ると左に柳宗悦邸跡、右に嘉納治五郎別荘跡がある。柳邸跡には地域の人々が「智・財・寿」を表すとして信奉する二本のスタジイ(椎の木)がある。「三樹荘」は柳の叔父に当たる治五郎が名づけた由。個人的には天神坂は以前の赤土の坂道の方が良かったと思う。

志賀直哉邸跡(大正四年から同十三年まで居住) 沼の畔の弁天山。志賀が所有していた船戸の土地を武者小路に譲って、この地「緑雁明緑地」に居を構えた。ここで数多くの作品を執筆した。地続きの崖の上に「離れ」を造り、客を招待したという。

滝井孝作住居跡(大正四年から同十二年まで居住) 「富耕旅館」に沿って小道を登ると、古墳公園に出る。坂の名前は「古墳坂」。ここで滝井は『無限抱擁』を執筆、発表した。

第129回史跡文学散歩報告

「旧我孫子宿を歩く」

財前 重信

(当日、体調が悪く散歩の途中で抜けましたので、それまで訪れた処について過去の散歩の際の記憶も含めて記述しますのでご了承ください) 三月十八日晴れ。参加者二十四名。

我孫子駅南口に集まる。今回も越岡副会長の名調子の案内で訪ねることにする。

我孫子駅誘致の功労者・飯泉喜雄さんを顕彰する小さな機関車の碑がある。常磐線開通は明治二十九年、成田線の開通は明治三十四年のことであった。

弥生軒は放浪画家・山下清が暫くの間、働いた蕎麦屋。現在は我孫子駅ホームで商いを続けている。

八坂神社は当宿の鎮守社であり、町の人々の信仰を集めている。

興陽寺。秋谷七郎氏の墓がある。昭和二十四年七月、国鉄総裁・下山定則氏が常磐線北千住と綾瀬間の線路上で轢死体で発見された。当時は戦後の混乱期で労働争議が頻発していた。過激な革新運動家による犯罪か？他殺か？自殺か？今も原因は定かになっていない。下山総裁の死体を鑑定したのが、秋谷七郎薬学博士であった。秋谷氏は我孫子町、寿の酒造家のご子息であった。この興陽寺の墓地に静かに眠っている。

第129回史跡文学散歩報告

「旧我孫子宿を歩く」

稲葉 義行

今回の史跡文学散歩は、春の日差しが暖かく感じられる三月十八日、我孫子駅南口に集合し、美崎会長から、「当会では、白樺派文士村形成の端緒を作った嘉納治五郎の銅像建立を計画しているのので、ご協力をお願いしたい。」との挨拶の後、越岡講師の下参加者二十四名で史跡散歩に出発しました。

先ず、駅前にある飯泉喜雄顕彰碑を訪れました。

飯泉喜雄氏は「鉄道なくして町の発展はない」と考え、日本鉄道会社に我孫子駅の用地を無償提供して土浦線(現JR常磐線)を誘致し(明治二十八年に我孫子町(現我孫子市)の第八代の町長となる)、明治二十九(一八九六)年十一月に土浦線を開通させ、我孫子市の発展に大きく寄与された方です。この顕彰碑は平成十五年、有志千三百名余からの寄付により建立されました。また、飯泉喜雄氏は、鉄道誘致とともに「道路なくして通行の便利なし」と考え、駅前の整備に尽力し、停車場道を造成して駅前の道路を作り、両側に桜の苗木を植栽し桜並木を作りました。桜並木はその後の区画整理で廃止されましたが、残っていたら、桜の開花期には壮観な風景となつたのではないかと思っています。停車場道は明治三十五(一九〇二)年頃建立され駅前の花屋さんの前の植え込みにあります。

次に、八坂神社を訪れました。祭神は須佐之男命(すさのおのみこと)、創建は応永三(一三九六)年で京都の八坂神社から勧請しました。我孫子宿の誕生に伴い宿の入口の守り神として建立されたと考えられています。

次の白山一丁目にある自性山興陽寺は、曹洞宗の禅寺で本尊は薬師如来、開山は天正八(一五八〇)年大涼玄樹大和尚、開基は江戸時代有力な檀家であった一八〇〇石の直参旗本山高八右衛門と考えられています。新四国相馬霊場八十八ヶ所の五十九番となっています。境内には釈尊と弟子の像、二宮金次郎像、我孫子宿本陣墓所や薬医門等、見どころの多い寺院です。当日は、彼岸の入りで、先祖様の墓に参拝される方が大勢いらつしやる中見学させていただきました。さぞご迷惑であつたらうと思っています。

駅前に戻り、山一林組(石橋製絲)我孫子製糸所跡へ行きました。現在は、イトーヨーカ堂南口店及び駅南口東公園となつていて、当時は偲ばせるものはイトーヨーカ堂南口店駐車場入口脇にある蚕を供養した「蚕霊塔」のみとなっています。明治時代に千葉県は養蚕業を奨励し繭の生産が拡大しました。そこで、長野県岡谷市に本社がある日本有数の製糸会社「山一

林組」は明治三十九(一九〇六)年、駅南東に繭から生糸を作る「我孫子製糸所」を設けました。工場には繭を収納する倉庫、繭をゆでる釜が二〇〇基、操糸工場等が設けられ、三百人を超える女子工員が働いていました。昭和六(一九三一)には、千葉県下の生糸生産高の七割を占めていました。その後、石橋商店(のち石橋製絲と改称)に経営が移り、昭和六十年まで生産を行っていました。製糸工場で思いつくのは「女工哀史」ですが、石橋製絲では女子工員に対し手習い事や夜学への通学を奨励していたとのこと。製糸工場での労働は厳しい労働環境をイメージしていましたが、この様な話を聞きホッとしました。



国道三五六号線に出て、旧我孫子宿名主邸及び本陣跡を訪れました。名主邸は茅葺き屋根の民家で、小熊家が享保二十(一八三五)年から明治に至るまで名主を務めた屋敷で今は非公開となっています。本陣は現在マンションが建っており、跡形もありませんが、本陣の離れ屋は旧村川別荘に解体移築されています。本陣跡から南へ五十メートルのところにある案内板には、「我孫子宿は、江戸時代、水戸徳川家や常陸周辺の大名が江戸との往来に利用した江戸と水戸を結ぶ「水戸道中」の宿場町として発展とあります。宝暦八(一七五八)年に書かれた「土浦水戸道中絵図」では我孫子宿はカギの手状に曲がった道に沿って七十軒ほどの家並みが続き、白い蔵を伴う本陣、伝馬や継飛脚を管理する「問屋場」が置かれていました。案内板の傍に立つ「子ノ神道標(寛政元年)と合わせ我孫子宿を知る貴重な資料となっています。」

館(現在の角松旅館)の説明を受けましたが、同じ行幸による行在所でも小金宿や牛久宿には碑が建立してあるのに我孫子には碑がないのは誠に残念です。市民の方にその様な事跡を知ってもらうことは有意義なことではないかと思えます(建立には高額な費用が掛かります)。

また、その向かい側あたりにあった「かど屋旅館」は東京歯科大学の創立者の一人である血脇守之助の生家でした。血脇守之助は、高山歯科医学院に学び、後に、経営を引継ぎ、東京歯科大学に発展させました。また、会津から上京してきた野口英世(博士、世界的な細菌学者)を物心両面から援助しました。

その次には香取神社を訪れました。創建は定かではありませんが、境内には、出羽三山、大山神社、浅間神社等の参拝記念碑が奉納されています。また、猿田彦、青面金剛の塚も多く見受けられました。

最後に、嘉納治五郎別荘跡を訪れました。

甥の柳宗悦夫妻が移住、志賀直哉、武者小路実篤等文人が多く居住し白樺派文士村の先駆けとなりました。また、白山に約二万坪を取得し、「嘉納後楽農園」として新しい農業技術を学んだ人材を迎えて野菜や果樹の栽培が行われました。

当我孫子の文化を守る会では、この嘉納治五郎別荘跡に嘉納治五郎の銅像を建立し、我孫子に残した業績を顕彰したいと思っています。会員皆様のご協力をお願いします。



金子兜太氏を偲んで

越岡 禮子

戦後を代表する俳人、金子兜太氏が二月二十日に亡くなられた。新聞各紙をはじめ、多くの記事はその人柄や功績を偲び冥福を祈った。私はテレビでその訃報を知った時、著名な文人達の訃報とは全く違う驚きと感慨があった。

金子氏は度々我孫子を訪れ、市民とは縁が深い。新木の真栄寺で永年に亘って年末に講話をされ、大変な人気であった。私は二十年ほど前に一度だけ「漂泊の俳人達」の題で下総に多くの足跡を残した小林一茶についての話を受講した。金子氏らしい大らかで楽しい内容であったが、氏の自由人で野性的な人柄の中に弱者の思いやりが随所に感じられる感動的な講話であった。最終回は一昨年真栄寺を訪ねられた時と聞く。最後の講話をぜひ拝聴すべきだったと残念でならない。境内に「梅さいて 庭中に青さめが来ている 兜太」の句碑がある。

我孫子市のシンボルともいえる手賀沼は古くから文人墨客に愛され、地元の人達に多くの恵みを与え、この地方の民俗を豊かにしてきた。

「我孫子の文化を守る会」では、創立十五周年記念(平成七年)に当時汚染ワーストワンを続けていた手賀沼の浄化の願いを込めて『句集 手賀沼』を発刊したが当時、金子氏に大変お世話になった。平成七年に手賀沼浄化の想いを詠んだ句を全国的に公募し、八二句が集まった。その選句をお願いしたのが現代俳句協会会長であった金子氏と地元在住



の俳人協会幹事の坂巻純子氏であった。金子氏はこの句集の趣旨に共鳴し快く引き受けてくれた。

平成七年五月にブレともいえる金子氏の講演会が催され「自然(じねん)について」の演題で「私の俳句人生において自分も自然の一つ、天然の中の生き物に過ぎない。自然とどんな気持ちを通わせることを考えるようになった」と語った。現代俳句の一人者、超多忙な金子兜太氏であるにも拘らず、驚くほどの薄謝で翌八年にも選評のため来我があり、閉会後の茶話会では誰とでも親しく会話を交わして、骨太なその人柄に心酔した人も多かった。

金子氏はこの句集では選考基準に絵はがき的ではなく、手賀沼そのものが如実で質感が感じられる句を選んだと言う。入賞二句

横線に一の火花の走りけり 岩村曜子
春耕す圧倒的な水を眼に 田中哲也

そして『句集 手賀沼』の選者詠は

春の鳥口ボツが横たえられてあり 兜太

少し奇異な気がするこの一句、金子氏は人口の物でも靈気を感じ、生き物と感ずる時がある。人間も自然の一部であり、人間の作った物でも自然と馴染むことがあると「天人合一」を記している。

この句集は大変話題になり、その後手賀沼は二十七年振りにワーストワンを脱却したが、最近また、汚染が進んでいるという。天国に出立した金子氏の手賀沼への想いと心意気を無駄にしてはならないと思う最近の私である。

あびこだより 2
8号

嘉納治五郎をもっと知ろう

伊藤 一男

嘉納治五郎(1860~1938)の78年の多彩な人生は、①柔道の創始者・講道館の創設者として、②教育家として、③国際オリンピック委員として、のように分けられよう。われわれ我孫子市民としては、これに

④我孫子との絆、をぜひ付け加えたい。

彼がいろいろな分野で素晴らしい活躍を見せ、しかも国内だけに止まらず、国際的にも大きな功績を全うし得たのは、彼が師と仰ぐ多くの先達のアドバイスを真摯に受け止めて努力を重ね、またそれらを更に後輩たちに伝授することによって大きな人脈の輪を形成したからではなからうか。以下、各分野ごとに嘉納治五郎の人脈について紹介したい。

①柔道の創始者として

嘉納治五郎は子供の頃からいじめを受けるほど身体が貧弱で、何とか強くなりたいと柔術を習い始めた。身体が小さくても大男を倒せるのは柔術、これだと決心した。研究熱心な彼はいろいろな柔術の流派にも興味を持ち、それらの良さと自らの創意工夫を加えて自分なりの技術体系を確立するとともに、理論面でも柔術の「柔よく剛を制す」の理から「心身の力を最も有効に活用する」「原理へと発展させ、技術と理論を組み立てた。またこれは単なる「術」ではなく、自己完成を目指す「道」であるとして、術から道へと名を改め、その道を講ずるという意味で名付けられたのが「講道館」という名であった。

柔術の師 福田八之助……天神真楊流柔術の師

飯久保恒年……起倒流柔術の師

講道館四天王

横山作次郎……講道館柔道八段

山下義韶……アメリカで柔道を普及

富田常次郎……同上、講道館柔道七段

西郷四郎……「姿三四郎」のモデル

②教育家として

青年期を迎えた嘉納治五郎は、将来は総理大臣か、それとも千万長者になろうかと考えた。しかし、男一匹、かけがえのないこの生涯を捧げて悔いのないのは教育以外にない、という結論に達し、明治15年、東京大学を卒業するや迷わず学習院に奉職した。次いで31歳の若さで第五高等学校の第三代の校長に転じ、熊本に赴任した。2年後、彼は第一高等学校を経て東京高等師範学校の校長に任じ、同校に体操科を設

置して青少年の身体を通しての教育のため、体育指導者養成を計った(「日本体育の父」と仰がれた。

教育家・嘉納の後輩

ラファディオハーン……五高で英語・ラテン語教員を担当、

講道館柔道にも触れる

夏目漱石……五高、高等師範で英語教育を担当、嘉納のお気に入り

教育家・嘉納治五郎のもう一つの功績として忘れてはならないのは、中国(清国)留学生教育に示した彼の情熱とその教育精神の高邁さである。

実は明治29年(1896)、西園寺公から嘉納治五郎に相談があり、「清国公使館からの要請で、清国の留学生の教育を受けてくれまいか」と。明治29年といえば、日清戦争終結の翌年であり、清国は負けた相手国の日本から学ぼうとしたのである。超多忙な嘉納は直接の教育は部下に任せ、自分は間接に指導・監督をするという条件でこれを引き受け、早速塾舎・弘文学院(のちに宏文学院と改名)を三崎町に設けた。

しかし、歴史はまことに皮肉な展開を見せ、日本で学んだ清国留学生のほとんどは時勢に目覚めて反政府運動に関わっていった。国家再生を託したはずの留学生たちは国家打倒を叫び始めたのである。結局、諸般の事情により本学院は明治42年に閉校になったがこの13年間の卒業生は実に3,810人の多きを数えた。

主な清国留学生

魯迅……作家、『狂人日記』『阿Q正伝』など

陳独秀……『新青年』の主筆

黄興……孫文の盟友、辛亥革命を指導

田漢……中国国歌の作詞者

③国際オリンピック委員として

嘉納治五郎の体育・スポーツ観の根底をなす理念である「精力善用」「自他共栄」はオリンピック精神にも相通するものであり、当時IOC会長であったクーベルタン男爵はスポーツによる教育改革に熱心な嘉納のような人物を仲間に加えることを求め、IOC委員就任を要請した。

1909年、嘉納はIOC委員への就任を引き受けるとともに、大日本体育協会を設立し、第5回ストックホルム大会(1912年)への出場準備を始めた。こうして第5回大会にはアジアから初めて日本が参加した(団長は嘉納。選手はたった二人であった)

嘉納の次なる目標はオリンピック大会の東京への招致であった。1931(昭和6年)、東京市会が開催要望を決議したのを受けて、彼はIOC総会や関連会議の都度、招致に向けた具体的な活動を精力的に行い、1936年のIOC総会(ベルリン)での最終投票で遂に東京に決まり、同年末には第12回オリンピック東京大会(1940年)組織委員会が成立した。

しかし一方、1937(昭和12年)、盧溝橋事件勃発に端を発して日中戦争が始まり、東京オリンピック開催も暗雲が立ちこめて再討議の必要性に迫られたが、1938年のIOC総会(カイロ)で英、仏は東京開催に反対したが、米は東京開催を支持して正式に決定された。嘉納はカイロからの帰途、米IOC委員を表彰訪問してバンクーバーから氷川丸に乗船……その後の悲劇は周知の通りである。

オリンピック関係者

クーベルタン男爵……近代オリンピック創設者

ブランデージ……第5代IOC会長

金栗四三・高島弥彦……日本人初のオリンピック選手

④我孫子との絆

嘉納治五郎は我孫子にとつて大事な人である。明治44年に嘉納は我孫子に別荘を構え、その他に広い土地を手当して学園構想を描いていた。嘉納は甥の柳宗悦夫妻を隣に呼び、柳は志賀直哉を呼び、志賀は武者小路実篤を呼び、かくして我孫子に白樺派の文士村が出来上がった。また嘉納は五高での教え子の村川堅固を我孫子に誘い、さらに杉村楚人冠らと共に我孫子の発展に尽力した。すなわち『すべては嘉納治五郎から始まった』といつても過言ではない。

我孫子にまつわる嘉納治五郎のエピソードには事欠かない。曰く、なぜ我孫子に別荘を持ったのか? 学園構想と農園構想との関係は? なぜ学園構想が潰れた

のか? 等々。諸説紛々、百家争鳴であるが、その一端を「放談くらぶ」で披露したい。

我孫子での主な人脈

柳 宗悦……嘉納の甥、宗教哲学者、『白樺』同人

村川堅固……五高時代の教え子、西洋史学者

杉村楚人冠……ジャーナリスト、随筆家

血脇守之助……歯科医、教育者、『杉山英先生の碑』

以上

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第14回

【印西市・松虫地区の巨樹巨木観察会】

牧田 宏恭

3月16日(金)、今年になって初めての観察会である。朝方から怪しげな空模様だったが、観察会の会員有志(7名)が我孫子駅を出発、新松戸経由、東松戸から北総鉄道線にて、最寄りの下車駅「印旛日本医大前駅」へ向かう。往路の車中で、巨木プロジェクトリーダーの佐々木侑さんから、レジュメが配布され、「松虫寺」の予習をする。

「松虫寺」は正式には

「摩尼珠山医王院松虫寺」とい真言宗豊山派の

寺院。聖武天皇が、奈良・

天平時代(745年)、天

皇の皇女「松虫姫(不破

内親王)」が重い病を患わ

れた折、「夢」のお告げで、

この地「下総・萩原」に下

向、薬師仏に祈り治癒した。

その後、聖武天皇は僧「行基」に命じ「七仏薬師如来

(後述)」を彫らせ、一寺「松虫寺」を開創させたといわ

れる。

医大前駅前に広がる新興住宅地を抜け、程なく「松

虫寺」へと続く小さな分かれ道に、「蔦」が絡んだ「スタ

ダジイ」の巨樹・古木が我々の目前に現れた(後で調べたと

ころこのスタジイも松虫の巨樹・古木に選ばれていると

のこと、幹回り約5m超)。この樹が「松虫寺のスタジ



イ?」と思つてしまひそうだが、今日の目的である「松虫寺のスタジイ」は、その先の松虫寺の門前に構える、この樹よりさらに大きい巨樹である。

途中、松虫姫の「乳母・杉

自」を祀った「杉自塚」の上に2本寄り添って立つ「アカ

ガシ」・「スタジイ」(写真と並び立つ「百庚申塔」を抜け、

「松虫寺」に到着。ここでさらに1名が自家用車で合流、

都合8名の参加になった。

境内に入る「仁王門」享保三

年(1718)改築(写真)手前

に、本日の目玉である巨樹「ス

ダジイ」が待ち受ける。樹の根

元に大きな空洞が口を開き、

根の向かい側が透けてみえて

いる写真。早速幹回りを実測

すると、何と8.6mもある。樹

高は15m以上あるようだ。そ

の大きさに圧倒される。さら

に仁王門手前「松虫寺」石柱

の奥に、大きな「イヌマキ」が

あり、この寺を「房州の魅力50選」に指定する説明板も

みられる。

門の右手に「本堂」寛政十一年(1799)建立;阿弥

陀如来、松虫姫尊像などを祀るを見ながら「仁王門」

を潜り抜けると広い境内の正面に「薬師堂」享保三年

(178)改築・七仏薬師如来像を祀るがある。

境内には「コウヤマキ」「タブノキ」「ヒヨクヒバ」「ス

ギ」「イチヨウ」などの大きな樹が眼を引く。この「イチ

ヨウ」は、松虫姫に纏わる由来があるとの説もあるよう

だ。境内を取り巻くように「スタジイ」が多い。また「薬

師堂」左手後方には「松虫姫神社」があり、濃いピンク色

の花を咲かせた「緋寒桜」が1本彩を添えている。

現在、「薬師堂」に安置されている「七仏薬師如来」は、中央に「中尊坐像」高さ54.3cm、左右に3体



ずつ小振りの「立像：高さ38cm」で構成される「国指定重要文化財」であり、坐像と立像で構成される、大変珍しい仏様で平安時代後期に造られたとのこと（写真：寺駐車場の案内板より抽出）。

この「七仏」は、33年に一度の御開帳時のみに拝観できる秘仏（権力ヤノキ製・一木造り・7体）で今、直に拝むことは出来ない。

因みに直近の御開帳は2012年、次回の御開帳は2045年とのこと。

この近くには見所も多数あるようで、再び訪れる価値充分の地だ。日本医大前駅近くのお店で昼食を摂りながら、樹木の話が弾む。心配していた天気も、大きく崩れることなく無事に「観祭会」は終了した。

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観祭会報告第15回

【船橋大神宮（意富比神社）周辺地区の巨木】

佐々木 侑

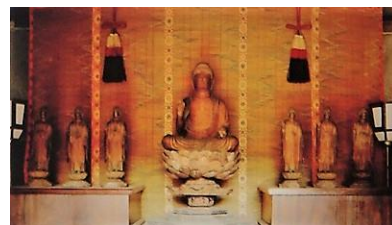
堂々と屋並みの上に現われし

四月十三日（金曜）、春風が時折強風を呼び砂埃をまき散らす中、巨樹巨木探索メンバー7名で船橋大神宮周辺に樹木観祭に出かけた。

当日の行程は、我孫子→柏東武線→東武船橋駅→船橋大神宮→西福寺→日枝神社→道祖神→東町意富比（おおひ）神社→長福寺→稲荷神社→夏見日枝神社→薬王寺→塙塚稲荷（船橋中学構内西南）→東武新船橋駅→我孫子

*船橋大神宮意富比神社（おおひじんじや） 主祭神：天照皇大神、創建：景行天皇40年（百十年）創建年、景行天皇の実在性には疑問、本殿の様式：神明造。

通称を船橋大神宮と呼ぶ意富比神社は、千葉県船橋市にある神社。徳川将軍家の家康公、秀忠公も合祀している。「意富比」の由来については食物神とする説、夕日



以上

とする説、豪族意富氏神説、大日の意でお天道様（太陽神）とする説など諸説ある。朝廷・将軍家などから崇敬を受け、平将門、源頼朝、徳川家康などが社領の寄進や社殿の造営・改修をおこなった。文化財として船橋大神宮灯明台（千葉県指定有形民俗文化財）がある。巨木：イチヨウ二本、タブノキ（写真①）

*西福寺（宮本六）は、真言宗の寺院である。鎌倉時代の創建という。西福寺には石造五輪塔と石造宝篋印塔の二つの県指定有形文化財（建造物）がある。

- 巨木：クスノキ（323cm）
- *日枝神社（東船橋一）
- 巨木：御神木イヌマキ
- *道祖神社（東船橋一）
- 巨木：タブノキ二本、イチヨウ（510cm）（写真②）
- *東町意富比神社（東町）
- 巨木：タブノキ（374cm）
- *長福寺（夏見六）は、曹洞宗の寺院である。本尊は聖観世音菩薩（市指定文化財、非公開）。江戸時代には將軍の御朱印寺となるが戊辰戦争で焼失。本堂右奥には戦国時代の城砦址と言われる土塁が残る。
- 巨木：スダジイ（382cm）、他スダジイ二本
- *稲荷神社（夏見六）
- 巨木：カヤ（306cm）、ケヤキ（333cm）

*夏見日枝神社（夏見二）、神社の建立は不詳であるが、一説に因れば、日本武尊の東征の頃と言われている。土地を司ると言われる大山咋神を祭神とし、魔除けの神と信仰されている。祭礼時には大蛇（龍）を造り、頭を伊勢神宮方向に向けて鳥居に飾り、五穀豊穣を祈る風習が伝承されている。



巨木：スダジイ（364cm）は御神木（写真③）

*薬王寺（夏見五）は、西夏見の真言宗の寺。本尊は薬師如来（非公開）、慶応四（1868）年の戊辰戦争で古文書は焼失。境内には元禄三（1686）の十九夜塔がある。

巨木：タブノキ（296cm）、スダジイ（300cm）（集合写真④）

*塙塚稲荷（夏見二・船橋中学構内西南）

巨木：タブノキ（350cm）、エノキ（320cm）
この日の調査樹木は二〇本であった。
（移動距離7.5km、移動徒歩時間三時間一五分、歩数15,000歩）



前号で報告した当会の名前で植えた桜が見事に花を付けました。（水の館駐車場南側広場内）



懐かしの北京の想い出(その4)

伊藤 一男

① 中国人の交渉術

宴会の席では乾杯！、乾杯！と杯を酌み交わし、もてなし上手な中国人は実に楽しい相手ですが、利害が絡む交渉ごとになると、態度はガラッと変わって実に疲れる相手となります。

日本語の「交渉」は中国語では「談判」です。いささか過激な感じを受けますが、実際彼らと交渉ごとを経験した日本人にとっては「交渉」よりも「談判」の方が似つかわしいのが実感でしょう。ましてや、当方に少しでも落ち度があればなおさらです。相手の弱みを容赦なく徹底的に攻撃してくるのが彼らの交渉術なのです。然らばその逆はどうでしょうか。一般に中国では計画通りに事が進んだためしがなく、契約を交わしても違反トラブルが続出するケースが多いです。それをなまじうものなら、自分には権限がない、忙しくて時間がない、装置が故障した、事情が変わった等々、まるで機関銃の弾のような言い訳がバンバン返ってきます。自分のミスを容易に認めないばかりか、挙げ句の果てには、日本の先生方は中国の特殊事情をもっと理解してくれないと困る、と来る始末です。われわれ日本人にしてみれば、相手が自分の過失を率直に認めてさえくれれば、それ以上の追求はするつもりはないのと思うのですが、この心情は日本人には通じても決して中国人には通じません。

いったい、中国人の交渉ごとにおけるこのようなしたたかなビヘイビアはどこから来たのでしょうか。征服と防衛の繰り返しであった過去の長い歴史の過程のなかで、そのような遺伝子が自然に備わったのでしょうか。いや、そうとは思いたくありません。なぜなら、中国は昔から礼節を重んじる国とされてきたからです。おそらく、文化大革命時代のような行き過ぎた社会主義の弊害が尾を引いているのでしよう。当時はこの「礼節」を「人民を蝕むもの」と決めつけ、革命の対象として葬り去ってしまったといわれています。

ところで、その後「四人組」が倒れると民衆の中から中国人のもつ美しい心、潤いのある人間関係を取り戻そうという叫びがおこり、一九八二年の三月を「文明・礼儀の月」として、北京はもとより中国の全土でみんなが「美しい心」ということを考え、心がけたことがあったそうです。この月間運動は三年ほど続いたらしいのですが、その後は発展的に解消したと伝えられています。最近の急激な開放経済に基づく拝金主義が再び荒んだ人心を齎すことに繋がるのではないかと案じるのですが。

② 腹を立てる原因

ある調査の中で、日本人と中国人の腹を立てる原因を比較した部分があります。それによりますと、日本人が一番怒るのは「待たされること」で、二番目は「説明されない場合」であり、中国人のそれは、一番「道理が通らないと感じたとき」、二番目が「侮辱されたと感じたとき」だそうです。これから言えることは、日本人が腹を立てる原因は他律的かつ心情的であるのに対し、中国人の場合は自立的かつ論理的であることがわかります。確かに、私も中国人との会議や待ち合わせのとき、彼らが時間にルーズなことがよくありましたので、けっこう腹を立てたことがあります。しかし考えてみますと、彼等の時間感覚が根本的に違うようです。日本人は一分、一秒の遅れも許さない几帳面さを持っていると同時に時間の遅れに対して短気なところがあります。大陸的な性格の中国人はいたって悠長、時間の遅れをあまり気にしない鷹揚さがあります。



時間に対する両者の違いを突き詰めていくと最後は「桃太郎」と「西遊記」の話に逢着します。内山書店の内山完造氏が生前語ったところによりますと、日本の「桃太郎」の話には、桃太郎の年齢や

鬼が島への距離、鬼の征伐に要した時間などが少しも出てこない。つまり、このおとぎ話には時間と空間が欠落している話なのです。時間と空間のない話で育てられた日本人は、いつしか時間と空間を飛び越える癖が付き、次第に短気となり、効率ばかりを求めようとなせつかな性格が形成されるようになったとのことです。

一方、中国の「西遊記」といえば、石から猿が生まれ、三蔵法師という実在した僧侶が三十六歳のときに、猿(孫悟空)と豚(猪八戒)と竜(沙悟浄)をつれてインドのフダラカ山へ遠征する。旅程は十萬八千里、往復に十四年という歳月を費やした。そこにはちゃんとした具体的な地名も時間も距離もはつきりと示されているのです。こうした話で育てられた中国人がものごとを気宇壮大に考え、次第に気長になるのは当然至極である、というのです。

さて、中国人が一番腹を立てるのは「道理が通らないと感じたとき」だそうです。例えば、日中合弁会社の日本人総経理(社長)が、部下の中国人に対してただ闇雲に「仕事をもっと早くやれ！」と怒鳴るときなど、当の中国人にしてみれば、なぜ急がなければならないのか、まったく道理が通らない注文なのです。そんなときは「給料を上げてやる」とか「納期に間に合わなければ会社のメンツがつぶれる」とか、道理が通る言い方をすべきなのでしょう。

とにかく、中国人はむしろ欧米人に似て、原則論で問題を処理しようとしています。中国にきた日本人としては、まずは彼らの道理を理解し、道理に叶う考え方を身につける必要があります。(つづく)

嘉納治五郎銅像建立委員会 今回計画している嘉納治五郎の銅像は昭和22年に文化勲章を受章した朝倉文夫の作品である。朝倉文夫は高村光太郎と並ぶ日本美術の重鎮であった。朝倉の作品は早稲田大学にある「大隈重信像」を始め有名なものが数多くあるが、我孫子にも文化資産がひとつ加わることになる。

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和十年

夏

川波やなつめく風の行くところ
植多ながら田水かけ合ふ戀もあらん
風そよく青田の水の畦を打つ
満洲は黄沙日の本は青嵐
釣手一つ朝寝に残す蚊帳かな

一昭和五年以前の句

夏

青梅をひんだかへたる蛙かな
せきれいの山吹ちらす石の上
青々と朝月残る蚊帳かな

第130回史跡文学散歩のお知らせ

「市内に残る嘉納治五郎の史跡を訪ねる」

当会では1月の臨時総会で会員の賛同を得て「我孫子の大事な人」と言われている嘉納先生の銅像を建立することになりました。

まずその一歩として市内に残る先生ゆかりの地を訪ね、知られていないエピソードや功績を紹介したいと思えます。元国際五輪委員であった先生は幻となつた東京五輪では手賀沼をポート場にする構想を持っていたといわれています。二〇二〇年の五輪大会まで是非銅像建立を実現したいものです。

是非ご参加ください。

1. 日時6月17(日)9時、我孫子駅南口階段下集合。(小雨決行) 正午解散予定。

2. コース 我孫子駅—嘉納後楽農園跡—円地文子別荘地跡—三樹荘—嘉納別荘地跡—楚人冠邸跡
(楚人冠記念館)一村川別荘

3. 講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

4. 参加費 会員 無料、非会員 500円

5. 申し込み TEL&FAX(七八四)二〇四七 越岡まで

今後の行事予定

□ 「Enjoy手賀沼」に展示参加

5月13日(日)9時～15時半
手賀沼親水広場
「嘉納治五郎の展示PR」

□ 「流山市立博物館友の会」講演会後援

5月16日(水)13時30分
けやきプラザ9階ホール
演題 「東葛地名考」
講師 三谷和夫氏(当会元会長)

□ 「文化講演会」

5月19日(土)14時～(13時30分開場)
エスパ(市民プラザホール)
演題 「多様性を重視した国際人・嘉納治五郎」
講師 真田久氏(筑波大学教授)
(詳細は1ページ参照)

□ 「定期総会」

5月19日(土)15時30分
エスパ(市民プラザホール)
(1ページ参照)

「放談」

日時 6月16日(土)14時～16時
会場 アビスタ(我孫子地区公民館)第2学習室
講師 伊藤 一男氏(当会副会長)
演題 「嘉納治五郎をもっと知ろう」

◎参加費 会員無料 非会員二〇〇円

申込みTEL&FAX(七八五)〇六七五 佐々木まで
(4ページ「あびこだより」参照)

「散歩部会」

日時 6月17日(日)第130回史跡文学散歩
「市内に残る嘉納治五郎の史跡を訪ねる」
9時、我孫子駅南口階段下集合。(小雨決行)
(詳細は上記に掲載)

□ プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第16回5月18日(金)

船橋市薬田台周辺

我孫子駅改札 8:30集合—我孫子 8:30↓8:50 松戸 新成 9:01—薬田台 9:37—俱利伽羅不動—正伯公園—薬田台公園—二宮神社—御嶽神社—新成前原—松戸—我孫子 16:00頃
(移動距離 60km・移動徒歩時間2時間45分、行程時間約4時間30分)

第17回 6月15日(金)

土浦市亀城公園周辺

我孫子駅改札 8:30集合—我孫子駅—土浦駅—亀城公園—(詳細未定)

□ プロジェクト「短歌の会」予定

5月22日(火)13時～第十一回短歌の会
けやきプラザ10階小会議室

編集後記

最近の話題で最大のものは四月二十七日に行われた韓国の文在寅(ムン・ジェイン)大統領と北朝鮮の金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長の劇的な南北会談であろう。その後の米朝会談を控えるトランプ氏が演説で北朝鮮問題をめぐる自身の成果を語っていたところ、支持者たちはノーベル賞! ノーベル賞! と連呼、平和賞受賞を期待する声が上がった。平和賞は医学・物理・化学の科学3賞に比べ選考にむけてロビー活動や政治行動が起ることから政治色が強くなりがちである▲様々な賭け事が盛んなイギリスでは、政府公認のブックメーカーの1つで大手のラドブロークスが、今年のノーベル平和賞の受賞者を予想している。そのラドブロークスの予想では、韓国の文在寅大統領と北朝鮮の金正恩委員長が2人が一番人気となっている。トランプ大統領がそれに続いているという。勿論、ノーベル賞を貰いたいがために会談をする訳ではないだろうが、逆にそれで世界が平和になれば、それも有りか。(美崎)